

令和 7 年 12 月 2 日
(2025 年)

3 年生保護者の皆様

吹田市立第六中学校
校 長 橋本 道信

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3 年生を対象として、「令和 7 年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8 月 29 日（金）に個人ごとの結果をお返ししました。また、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった 3 年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

- 国語・・・平均正答率は全国値をやや下回った。「記述式」の問題形式において正答率が低く、話題や展開を捉えながら自分の考えをまとめることが課題となった。

<各内容における成果と課題、指導改善のポイント>

【知識及び技能】

言語の特徴や使い方に関する事項

平均正答率は全国値をやや下回る結果であった。文脈に即して漢字を正しく書く力、表現の技法について理解する力がついてきている。

【思考力・判断力・表現力等】

話すこと・聞くこと

「発表のまとめスライドについて、結論を明確に伝え、要点を絞り、視覚的に整理することを助言する」問題においては全国値を下回っていた。「相手の反応に合わせて発言内容を変えた理由を問う」問題で全国値を上回った。

書くこと

「手紙の校正を行い、改善箇所と、その理由を説明する」問題においては全国値を下回っていた。「来場者の利便性向上を目的とした会場図の追加理由を問う」問題では全国値を上回っていた。

読むこと

「物語に登場する兄と弟の性格を説明する」問題においては全国値を下回っている。「読者の興味を惹きつけ、読み進める動機を与える効果を問う」問題においては全国値を上回っていた。

国語における成果と今後の改善点について

「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」の問題において正答率が全国値を上回る結果であった。日々の授業の中で定期的な漢字テストや語句の意味調べの反復を継続してきたことの成果が見られた。

「言語の特徴や使い方に関する事項」においては課題が見られた。コミュニケーションにおける役割を理解し、相手や状況に応じて適切に使い分けることの練習を一層取り入れていく。

- 数学・・・平均正答率において全国値を上回った。確率以外での問題で全国値を上回る結果となった。全体的に無回答率も低く立体や1次関数は無回答率が0になっている。

<各領域における成果と課題、指導改善のポイント>

数と式

「知識・技能」の観点での問題はどれも全国平均値を上回る結果だった。記述式の問題は全国平均値を上回っているものの、前提の確認が不十分のために正答率は低くなっている。

図形

「知識・技能」についての無回答率はかなり低くなっている。正答率は全国平均値を上回っている。合同の証明においては全国値を上回っているが他の回答と見比べると無回答率が高く記述に課題がある。

関数

「知識・技能」を問われるような問題は無回答率が低くなっている。全国平均値を上回っているが、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明するような問題が全国平均値と同様に低くなっている。

データの活用

データの分布からそれぞれのデータの比較をするような問題の正答率はかなり上回っている。確率の「知識・技能」においては全国平均値とほとんど同じになった。

数学における成果と今後の改善点について

日々の授業の中で、十分な演習を行っている成果が見られた。どの問題においても高い正答率になっている。

記述式の問題においては、全国の平均正答率よりも高くなっているものの、今後も生徒間での解説や解答の手法を記述させたりする時間を多くとっていく必要がある。

- 理科・・・平均正答率は全国値をやや下回っていたが、平均 IRT スコアは全国値とあまり変わらない結果となった。選択式の問題において無回答は少なかったが、記述式の問題になると正答率が低く、実験結果に対して知識を活用して考察し、記述する力が課題となった。

<各領域における成果と課題、指導改善のポイント>

エネルギー

電気抵抗や熱量に関する知識が全国値より少し低い値となった。音の単元では全国値と同様に正答率が低くなった。仮説を確かなものにするために実験を計画する力や正しい結果を予想することに課題が見られた。

粒子

火災の避難行動や加熱を伴う実験において問う問題において、実験器具の使い方や一酸化炭素の性質などを正しく理解できていた。元素を記号で表す知識・技能では全国値を大きく上回った。身の回りで生じた疑問への解決方法を記述することに課題があった。

生命

全国値より少し高い結果にはなったが、生物の体のつくりやはたらきについての知識に課題が見られた。スケッチなどの実験の技能は身につけることができていた。

地球

地層の単元においては全国値と比べて少し高い正答率が得られた。地層の広がりや各地点のボーリング調査の結果から判断することや状態変化や圧力に関する知識をもとに、気圧について考察することに課題が見られた。

理科における成果と今後の改善点について

実験に取り組みさせることで、正しい技能や安全面に対する知識をつけられていた。また、選択問題において無回答率がほとんど0%と粘り強く回答できていた。しかし、記述問題においての無回答率が多く、考察して記述することに課題が見られたので、今後は実験後のレポートに文章記載の項目を増やし、グループワークにおいて班員とコミュニケーションをとりながら、結果について考察させるなど、表現力を培うための活動に力を入れていきたい。また、普段の生活と理科の事象が結び付けられるように、授業の導入時に図やイラストなどを活用しながら、子どもたちに興味を持たせられるようにもしていきたい。最後に、振り返りシートを活用しながら子どもたちが主体的に活動できていたか、授業者も確認しながら全体の理解度に合わせて授業進度を考えるなど、今後も工夫していく。

2 質問紙調査の結果について

【基本的生活習慣について】

「朝食を毎日食べている」は91%以上、「同じくらいの就寝時間」は、85%以上、「同じくらいの起床時間」は92%以上という結果であった。

～今後の取り組み～

基本的生活習慣については、ご家庭での意識も高く、比較的確立されている。学校では5分前行動の意識付け、チャイム着席の徹底など生徒自らが行動し確立されている。

生徒のより良い発育・発達に欠かせない生活習慣を身につける意義を考えながら、引き続き学校全体で取り組みを進めていく。

【規範意識、自己有用感など】

「自分には良いところがある」に関する肯定的回答は81%以上、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人いつでも相談できる」の肯定的回答は70%を超えるものの、大阪・全国値をやや下回った。

「先生はあなたの良いところを認めてくれている」に関する肯定的回答は93%以上となり、大阪・全国値をやや上回った。「将来の夢を持っている」に関する肯定的回答は60%以上あるが、大阪・全国値に比べ下回る結果となった。

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」は、96%を超える回答であった。

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」「友達に満足している」は、どちらも約75%を上回っているが、大阪・全国値と比較するとやや下回る結果となった。

～今後の取り組み～

毎日の学校生活の中にある生徒の何気ない言動を、常日頃から教職員が認め、褒めることは生徒の学習意欲の向上につながる。

また、視野を広く持ち、対話を通して関係性を高め、相談できる体制の強化を考える。

様々な人の生き方や多様な考え方に触れる授業等を通して、人間関係を築く力や、お互いの人権を守ること、公共の福祉に配慮することの大切さなどについて考える教育を推進し、「ポジティブ行動支援」を主軸とした学習指導・生徒指導の充実、道徳・総合的な学習の時間の充実を図り、先を見据えて、丁寧でコツコツと積み上げる仕事を組織で実行する。

また、仲間や地域の人とともに学ぶ機会を数多く設定し、人とのつながりを感じあうことで豊かな心の育成につなげていきたい。

【学習習慣、学習環境について】

学習習慣の面では、「自分で学び方を考え工夫する」割合や「平日に2時間以上学習する」生徒の割合は全国値を上回ったが、「全く勉強しない」という回答も多かった。

また、「自分でインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができる」割合は、全国値を上回っていた。

～今後の取り組み～

「平日に2時間以上学習する」という回答が40%を超える一方、「平日の学習時間が30分より少ない」という回答が25%だった。学習習慣の定着につながる働きかけを教科指導や日常の関わりの中で実践していく。ご家庭でもお声がけよろしく願いいたします。

【1・2年生時の授業について】

「PCを使った」割合が低く、プレゼンテーションを作成することや文章を作成することの割合も全国値やや低い。一方で、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた割合は全国値よりも上回る結果となっている。

～今後の取り組み～

自分の考えをまとめる活動などでiPadを用いて行う授業展開や友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりする機会をさらに増やしていく必要がある。わかったことやわからなかったことを見直すことで次の学習や実生活で生かす場面を増やしていきたい。

また、知識技能の観点に重きを置きすぎた授業ではなく、思考力・判断力・表現力の観点の力を伸ばすために「学習に粘り強く、自分の考えを見直す」機会を設ける授業改善を実践していく。